

No.創出-1-4	つる植物などによる緑陰形成
-----------	---------------

技術の目的

つる植物とパーゴラなどの構造物や補助資材を組み合わせ、緑陰を形成し、暑熱対策をするとともに、涼感ある空間の形成を図る。

導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域

技術の内容・事例

■技術の内容

1. 歩行空間・休憩スペースの緑陰形成
 - ・ワイヤメッシュなどの補助資材により庇・トンネル状に歩行空間を被陰する方法や、パーゴラ・ミストと組み合わせた可動式の設備がある。
 - ・設置場所の特性や求める機能に応じて、様々なバリエーションのものが開発されており、植栽が困難な空間、あるいは一時的なイベント利用に供する場合にも設置しやすい。



休憩スペースと組み合わせた可動式緑化（国土交通省実証実験事例）^{出典1} 植物種：アサガオ、トケイソウ、イタビカズラなど

2. 建物内への直射光の遮蔽
 - ・建物外構部に補助資材により設置することで、建物内への直射光を遮蔽し屋内の温度低減やエネルギー消費削減に寄与することができる。



コンパクトなプランターとワイヤーを組み合わせた緑化システム^{出典2}

緑のカーテン

緑のカーテンとは、建物の壁面や窓等をツル性の植物で覆い、夏の強い日差しを遮る地球にやさしいカーテンのことです。
植物自体が水分を蒸んでいるため、その蒸散による気化熱（水分が蒸発する際に周囲から熱を奪う）の効果で涼しさを感ずることが出来ます。
また、植物の光合成により二酸化炭素（CO₂）の削減にもつながります。

緑のカーテンの紹介（中央区 HP）

■出典・参考資料

- ・ 1 (公財) 都市緑化機構特殊緑化共同研究会「都市のグリーンインフラ技術の提案」(令和元(2019)年) <https://urbangreen.or.jp/tech/workshop/tokushuryokuka>
- ・ 2 グリーンインフラ官民連携プラットフォーム技術部会「グリーンインフラ技術集」(令和3(2021)年3月版) 要素技術「緑化技術：内プランター付固定型ボックス壁面緑化システム」
<https://gi-platform.com/project/#examples>
- ・ 3 中央区 HP 「緑のカーテン」 <https://www.city.chuo.lg.jp/smph/kankyo/midori/midoricurtain.html>

基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ、 魅力とにぎわい にあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
◎	◎	○		○	

注) ◎：当該技術の主要な機能、○：当該技術の副次的な機能

期待される効果

環境			防災			福祉・教育			地域振興		商業・観光振興					
ヒートアイランド減少の緩和	都市における生物多様性の確保	水質改善	災害(火災・水害など)の軽減	災害時の復旧活動・支援拠点	災害伝承・防災教育の場	健康増進・介護予防	緑の景観によるストレス軽減	子育て支援	環境教育・自然とのふれあい	コミュニティの醸成	地域の自然観・郷土愛の醸成	都市の魅力・競争力の向上	不動産価値の向上	観光・商業振興	労働生産性の向上	労働環境の改善
●	●					●	●					●	●	●	●	●